



「オーディオ・ホームシアター展 2013」 見聞記

村瀬 孝矢

- 今年も「オーディオ・ホームシアター展」が開かれた …… “会場も変わり一新した展示会に”

今年から心機一転、会場を東京「お台場」に移しての開催となった。『タイム 24』というテレコムセンター駅（ゆりかもめ線）直近の便利なところへの移転だ。1つのビルをほぼ貸し切り状態で使うことで来場者の利便性を改善させたのだ。会期は3日間（10月18～20日、全日無料）としてこれまでどおりである。

この移転によりこの展示会は一変することとなった。いろいろな意味で経費削減策も図られたのだが、コンパクトと凝縮化により密度濃く集中させるという狙いのである。

さて新しい会場を訪れて最初に感じたのは雰囲気の違いである。ビジネス街に設けられたという印象で一般展示会とは異なったりと真面目な展示会という印象を受けること。そこでは際立って目立つ看板が用意されることもなく、正面入り口が派手に飾られていることもない。秋葉原会場のときよりずっと真面目になったようである。ただ展示会というのはある意味、一年のお祭りでもあるからもう少し華やかさがあっても良かったとは思った。テレコムセンター駅を降り会場ビルまで辿り着くあいだ誘導員がいるが、ここに幟があったらまた違った雰囲気にできたのではないだろうか。展示会場の入り口の装飾も含め、もう少し気持ちを高ぶらせるような演出があっても良かった。



入口近くの看板

タイム 24 ビルの1階、2階、18階を使用した今回の展示会は、秋葉原で作れたブース集合体とした大きなスペースが取れなかったようだ。そのため各ブースの集合した、いかにも展示会風の演出ができない。この展示ブースがなくなったことが全体の印象づけに効いたと思った。大小会議室の集まったビル構造もあるようだが、もともと華やいだ展示会向けの建物ではないと感じたのである。

もっともオーディオ環境作りの面では悪くはなかったと思う。それぞれ各出展ブースが部屋借り形式で仕切られるため、音の干渉から逃れられるからだ。

各社の試聴室



もっともこれは一部の小部屋や大部屋が独立して使用できた場合である。実際はかなりの大部屋をコマ割りしたブースもある、こちらの環境があまり良くなかった。コマ割りしたブースの仕切り用壁が薄いパーティション式なので音漏れが大きかったのだ。少なくともこれは対策すべきだった問題点だろうと思う。例えばNHKのスーパーハイビジョンデモルームは昨年より小型化し、しかも部屋の隅に押しやって構築とやや苦勞したあとが見られたのだ。これにより8Kテレビ（85インチ）と22.2chオーディオというA&Vの醍醐味ももう一息が残ったのである。



NHKのスーパーハイビジョンデモルーム

こうした会場変更により環境の制約を受けたところは他にもあった。「音のセミナー」や「ライブレコーディング」など昨年と同様に催されたが、専門ルームから大会議室へ変わったなどである。会議室を使用することにならざるを得なかったための音響対策に工夫を要することとなったこと。入念に徹底すべき処置であるがその対策はやや中途半端のように見受けられた。生録など音量の大きくなりがちな催しでは効果に影響すると思われるからもっと丁寧な取り組みを要するのではないだろうか。

さて、今回の会場移転により、出展側の変化もあったもようである。新たに出展したところ、止めたところと出入りがあったようだ。ちなみに出展社数は70社・団体と発表されている。出入りの数はほぼ同数となり出展数の変化は少なかったようである（見送ったところではカーオーディオ、専門誌らの一部）。

このように新しい会場に移って初めての会ということなので、いろいろな不都合さや疑問が見つかることは致し方ないだろう。次回はこうした経験を踏まえ、改善点を改善として、もっとよりよい展示会へとつなげて行けば良いのではないだろうか。

● 「ハイレゾ」オーディオが活況を見せる

それでも会場は新たな動きがあり熱気が満ちていた。それが「ハイレゾ」オーディオの台頭である。音楽ソフトのハイレゾリフレッシュ化によりCDを越える良質なオーディオ環境が手に入ると、オーディオファンの関心を集めている。PCオーディオや

ネットオーディオとして先に普及のきざしは見ていたが、ここに来てソニーが「ハイレゾリフレッシュオーディオ」機器を一気に投入することを発表、その具体的なモデルを会場で確認できると、これが大きかったようだ。彼らはポータブルオーディオからコンポーネント、システムコンポ、さらにヘッドホンに至るまでハイレゾ対応したのである。また同時にハイレゾ音楽配信サービスのコンテンツも充実させ、本腰を入れて取り組むことを表明しこれをファンが歓迎した。そのソニーは18階の専用ブースを設けハイレゾとホームシアターの兼用の試聴会を行い、満員の盛況ぶりだった。



ソニーのハイレゾオーディオ機器



ソニーブース：ハイレゾ試聴室

この流れを受けてハイレゾ陣営でもないが、PC&ネットオーディオ機器メーカーの「合同展示コーナー」、そして「オーディオセミナー」、さらに「音のサロン」でのハイレゾ説明&試聴会らが盛況で、ファンの新しい音源ソースへの関心が高いことを伺わせた。

合同展示コーナーは1階のHALL2に設けられていたが、協会テーマコーナー「ネットワークオーディオ」に18社も参加するなど盛況であった。それに関連するコンポとして「ヘッドホン/イヤホン」コーナーが隣に設けられ、ここに参加するメーカーも昨年より増えて16社となり、相乗効果を上げていた。どちらも熱心な方が立ち寄り繰り返し質問な

どされていて関心の高さを感じた。そしてセミナーも専門誌や協会の両者で行うなど、オーディオファンサービスもしっかり根付いて良かった



協会テーマコーナー

ヘッドホン・ネットワークオーディオ



ヘッドホンを試聴する見学者

ネットワークオーディオを試聴する見学者

ついでハイレゾの類いでは「BD オーディオ」も、そのハイレゾリューション対応と言うことで大々的にアピールしていたのが印象的だった。ハイレゾをパッケージングにして手元に届ける、という考えの音楽ソフトだが、BD オーディオグループ合同でブースを設けたほか、セミナーも積極的に行い、新しい音の良いソフト環境をアピールし認めてもらっていた。ちなみにこのBD オーディオディスクの再生はCDと同じようにプレーヤーで行えるため、ネット接続などといった手間を掛けずオーディオ環境の中に取り込めるのが特徴である。そのプレーヤー、現在はBD レコーダーが一般的で、オーディオ出力はHDMI 端子から取り出す仕組みである。



Promotion group for Blu-ray Disc for Audio のデモルーム

● 好評な「音のサロン」も健在ぶりを発揮

オーディオファンが楽しみにする催しものの1つが「音のサロン」である。展示会ならではの貴重な音の体験会で、昨年この催しものへの人気も高く、熱心に聴きいるファンで埋め尽されたものだ。今回も会場を変えたもののこの勢いが引き継がれていた。席数は約64名ほどと規模が少し縮小したものの、つねに満席状態という盛況ぶりに変わりはない。注目のオーディオブランドモデルを使ってシステムアップした再生音がここで確認できるほか、女性ボーカル、ジャズソフトの体験会、モノラルレコード体験会、最新スピーカー聴き比べ、最新PCオーディオ聴き比べなど、1日4回の催しである。



大盛況の音のサロン

そしてこの展示会恒例ともなっている最終日の日曜イベント「生録会」(レコーディング体験会)も行われた。ビギナーの方大歓迎と称して開かれているが、デジタルレコーダーメーカー5社協賛で行われるオーディオファンも待ち望むイベントの1つである。今回は会場(HALL1)が変わったので音響的な面の不安が伴うが、「弦楽四重奏」(カルテット・クローデル)の生演奏をデジタル録音できるため参加希望者も多い。



HALL 1 での生録会

なお、今回はこの日曜日に「生演奏会」をふんだんに用意したのが注目される。会場は2階の研修室201と生録会と異なった場所であったが、音楽好きなオーディオファンが詰め掛けて人気となっていた。これは前回までなかった催しもので新たな取り組みとして歓迎されよう。



研修室201でのコンサート

もう一つの恒例行事は「工作教室」、これは親子向けオーディオ工作教室である。今回も「ファイナルオーディオイヤホン」の組み立て会が行われた。定員に制限があるものの、申し込み者も早い段階で埋まるという人気イベントの一つである。場所は正面入り口1階という一等地、しかも明るい会場で教室を盛り上げていた。



アトリウムで開催された工作教室

なお、こうした新しい取り組みなどを始めた陰で消えたものも実はある、それがホームシアター体験会。秋葉原の前回までは専用ルームで開かれてきたが、今回はその専用ルームの確保が難しかったのか用意されなかった。その意味では、ホームシアター関連の出展などは後退したと受け取れよう。今回スクリーンを張ってホームシアターデモを行ったメーカーはソニーとヤマハなどとなってしまった。

● まとめ

新しい会場「お台場」に変わった最初の「オーディオ・ホームシアター展」であった。「ゆりかもめ」で行かないといけないといった少し不便が残るものの、コンパクト化した会場で秋葉原のように建物間の移動と言ったことがなく来場者の利便性は良くなった。しかし、全体からは華やかさのある展示会という雰囲気からはやや遠のき、単なるオーディオイベントといった印象になったのも事実である。展示ブースが一同に集まった賑やかな会場がないが、こうしたお祭りのな場を盛り上げる演出と言った配慮があっても良いように感じた。次回は何とかして設けたいものである。

また高齢化してきているオーディオファン層でもあるが、だからこそ新しいデジタルオーディオ「ハイレゾ」がその壁を突き破ってくれると確信するし、期待する。この新しい音源がコンパクトなオーディオシステムでも豊かな音の世界を作り出し、ヘッドホン/イヤホンファンやポータブルオーディオファンらを、オーディオの楽しみに目覚めさせいざなってくれるのではないのだろうか。

今回はある意味ハイレゾ一色になっていた、と言っても言い過ぎではないだろう。そう言う意味では展示会テーマをもっと積極的に掲げ、「呼び込み」を徹底しても良かったと思っている。必要なのはちょっとした気配り、もてなしの気構えではないだろうか。